

(様式2) 平成29年度 [自己評価報告書]

学校番号	学校名
4	川崎市立橋高等学校定時制
校長名	小平 智足

- (1)書き方については、19年度～21年度発行の「学校評価報告書」を参照ください。
- (2)評価項目設定については、各学校の実情に応じて取捨選択したり、新たな項目を各学校独自の言葉で作成したりして記入することもできます。
- (3)学校関係者評価を実施した学校は、「学校関係者の評価」に記入してください。
- (4)「今年度のまとめ・次年度へ向けての取組」に、今年度の学校運営のまとめと次年度への具体的な取組を記入してください。また、取組や課題に関連して、教育委員会の施策や事業に対するご意見、あるいはご要望等がございましたら記入してください。

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
真理と正義とを愛し互いに敬愛の誠を尽くし、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた心身共に健康な平和国家社会の形成者の育成 1 知性と品性を高め豊かな情操の育成に努める 2 協同友愛 3 自治の精神の確立 4 勤労愛好の習慣の体得	1 豊かな学力の育成 2 キャリア教育の充実 3 豊かな心の育成 4 魅力ある学校づくり	○基礎・基本の定着や応用力・問題解決力及び自己学習力の育成 ○個々の進路を考えた進路指導・生徒指導・特別活動指導の充実及び生徒の主体性の育成 ○人権尊重教育・道徳教育、健康・安全教育による豊かな心とコミュニケーション能力の育成 ○開かれた、信頼される学校づくりと活力あふれる教職員組織の構築

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1 教育課程・学習指導	※定期考査前の補習を通し個別指導の充実。 ※3修制プログラムをより魅力的なものにし、履修率と定着率を高める。 ※充実した授業形態や、ICT活用やアクティブラーニングについての職員研修の実施。	☆特定の教科については、補習の定着がみられた。今後、他教科での個別指導を充実させた。 ☆今年度も毎週一回のペースで「教科科担当委員会」を行い、情報交換や、適切な指導が行えるように討議を深めた。その結果、履修率、定着率も向上した。 ☆職員の校内研修はできなかったが、外部の研修会には参加し、研修内容の共有を図った。	○一人ひとりの生徒に応じた学習指導ができるように、個人指導日、教科指導日、特別指導日を活用し、きめ細かな学習指導を目指す。 ○今年度同様、「教科科担当委員会」を充実させ、履修率、定着率の向上に努める。 ○新学習指導要領の改定に向け、職員研修や勉強会を企画し実施する。
2 生徒指導	※集中して授業を取り組むように、粘り強く指導を行う。 ※授業中の携帯電話・スマートフォンについては、決まりを作り指導し、授業中の使用をなくす。 ※自主的に生徒会活動ができるように援助する。また、地域ボランティア清掃も定例し、より参加しやすい方法を考える。 ※いじめ、生徒間トラブルの防止、及び、精神的な悩み相談など生徒理解に努め、学校全体で指導を行うようにする。	☆全体指導、学年集会、個別指導を通し、適切な授業態度で授業を受けるように指導を強化した。 ☆携帯電話・スマートフォンの授業中の使用については、決まりを徹底したことで使用はほぼなくなった。 ☆生徒会活動が、より一層自主的な活動になるように側面からの指導を心がけることで、活発に活動することができた。また、地域ボランティア清掃は年間3回実施しており、多くの生徒が参加できるように、実施時間帯の検討を進めた。 ☆生徒生活アンケートの実施結果を学年集会で、確認・検証し、情報を共有する。支援が必要と認められたときは迅速にケース会議を行い、きめ細かな対応を行った。また、教育相談期間を年間4回設け、必要に応じてカウンセラーとの面談を行った。	○全体指導、学年集会を通して授業の受け方や態度について、指導の強化・徹底を図る。 ○携帯電話・スマートフォンの授業中の使用については、今年同様指導を進めるが、特に新入生については学校全体で指導の徹底を図る。 ○生徒会行事の一つ一つを通して自主的に活動できるように環境整備を行う。 ○生徒一人ひとりのコミュニケーションを深めるとともに、学校生活アンケート等を行うことで、早期に問題を確認・認知し、迅速に対応できるように学校全体で取り組む。
3 進路指導	※全校を対象とした説明会や講演会の内容を工夫し、より効果的なキャリア学習のあり方を考える。 ※12月の職業体験において参加形態の工夫を図り、より多くの成果をあげる。 ※3修制(ジャンプアッププログラム)の履修者は、1年間早く卒業を志す生徒であることを考慮し、プログラムの中にキャリア学習・道徳学習の充実を図る必要があり、新しい学習内容を組み込んでいく。	☆今年度もキャリア教育委員会では、年度当初の年間計画に従い指導をすすめた。全校生徒を対象に行われた、分野別体験型進路説明会・就労体験・キャリア講演会等の指導は、キャリア意識を促し、生きる力を育てている。 ☆生徒の就労意識を高めるプログラムとしては、5月に分野別体験型進路説明会・7月・8月の就労体験・10月に「労働法」に関するキャリアガイダンスを行った。どの学習も意欲的に生徒が参加し、生徒の就労意識を高める成果があった。 ☆3修制(ジャンプアッププログラム)の履修者の卒業学年(3学年)の生徒に対して、9月からは進路対策として面接指導などを行った。また、2学年は面接対策、1学年はキャリアガイダンスを行い、全体では外部講師による「高校等出前就職支援セミナー」を本年度も実施しキャリア学習・道徳学習の充実を図った。	○全校を対象とした説明会や講演会は、繰り返し学習することで、定着を図ることができ、一方でマンネリを感じさせることもある。来年度以降も、常に内容の見直しをしていく必要がある。 ○今年度は12月の職業体験を1・2年合同で行い、多くの成果をあげた。 ○3修制(ジャンプアッププログラム)の履修者は、来年度以降も、プログラムの中にキャリア学習・道徳学習の充実を図り、新しい学習内容を組み込んでいきたい。 ○今年度は進学先に合格しながら、経済的理由で入学を辞退する生徒がいた。卒業学年の生徒に対しては三者面談などで家庭の経済状況を鑑み、より丁寧に進路指導をしていきたい。
4 安全管理	※夜間定時制という特別な環境を考慮した防災訓練を実施したい。停電下での避難訓練や、交通機関が動かない場合の想定など、様々な条件を考慮する必要がある。 ※必要な研修会・講演会は繰り返し開催する。「携帯電話・スマートフォン使用教室」はその重要性から毎年の実施を計画する。	☆今年度の防災訓練(第2回)は、昨年度の備忘を生かし、停電時の避難の状況(教室・廊下などの照明は消す)に近づけて行った。 ☆今年度も生徒帰宅方法別名簿を作成し、帰宅訓練を行った。 ☆今年度も生徒向けに「携帯物乱用防止講演会」「性に関する講演会」を実施し、教職員向けには「心肺蘇生(AED)に関する研修」「イベントに関する研修会」を実施した。例年と異なる内容もあったが、年一回の受講は、確認の意味でも重要である。 ☆今年度は人権尊重教育として「命の大切さを学ぶ」講演を行った。その結果「携帯電話・スマートフォン使用教室」については実施しなかった。	○今年度と同様に防災訓練(第2回)は、停電時の避難の状況(教室・廊下などの照明は消す)に近づけて行った。できれば避難場所の照明も落とすことで、できるだけ停電時に近い状況で実施したい。 ○来年度以降も、必要な研修会・講演会は繰り返し開催していきたい。昨年度実施し、今年度実施できなかった「携帯電話・スマートフォン使用教室」はその重要性から来年度は必ず実施したい。人権尊重教育としてではなく生徒指導の一環としての実施も検討したい。
5 組織運営	※キャリア教育委員会は、本市の「かわさき教育プラン」の重点施策である「キャリア在り方・生き方教育」を参考に、常に学習内容の見直しと改善を行ってきたい。 ※校務の手引きの検討・見直しをすすめる。 ※次期指導要領をにらみ教科指導方法等の研修も行う。	☆キャリア教育委員会では、常に改善を意図して指導計画を編み上げてきた。その結果、昨年と同様に一昨年度までは1学年でのみ行われてきた職業体験を、1・2学年の同時開催とし、生徒も意欲的に参加した。 ☆校務の手引きは各分室(教務・生徒・管理)で検討・見直しを行い、「H29年度版校務の手引き」を作成した。 ☆今年度も、職員研修として「イベント研修」「AED研修」「体罰防止研修」を行った。内容の定着を図るため、1年度の確認は必要である。	○来年度以降もキャリア教育委員会として、「かわさき教育プラン」の重点施策である「キャリア在り方・生き方教育」を参考に、社会情勢や生徒の実態に即した学習内容の見直しと改善を行ってきたい。 ○今年度行った「H29年度版校務の手引き」を活用し、さらに必要に応じ検討・修正を継続して行いたい。 ○高大接続改革や次期指導要領の改定をにらみ職員研修の充実を図る。
6 保護者・地域住民等との連携	※授業公開・学校説明会を行い、適応指導教室や、夜間中学校の生徒に対し、積極的に本校の教育特性を知ってもらう。 ※ホームページについては、学校生活についてや、部活動報告を含め更新する。 ※地域ボランティア清掃の継続や、文化祭への近隣町内会役員の方々を招待し交流を図る。	☆学校説明会の前に中学校訪問を行い、クラス用、個人用に本校資料を持参し、教育特性の情宣し努めた。また、授業公開も同時に行った。 ☆ホームページには、「タチポ」等も載せ内容も充実し教育的に更新した。 ☆授業公開や文化祭・スポーツ大会は、近隣地域の方々、保護者、同窓会、入学希望者に公開した。	○今年同様、中学校訪問を行い本校の教育特性を理解してもらおう。 ○ホームページをより見やすく、内容も充実させて更新する。 ○近隣商店街の方々や、近隣地域住民の方々や文化祭等を通して交流を図る。

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けての取組
○3修制の0校時の授業は生徒一人一人が目標を持って取り組んでいる。教員はチームティーチング等で細かくそれぞれの生徒の目標をサポートしている。 ○新学習要領の改訂に伴うカリキュラム編成においては、教員の現任教ではなく生徒の将来を考えた編成をしてもらいたい。 ○生徒主体のわかりやすい授業を心がけてもらいたい。 ○時間を守るなどの生活習慣を大切にす気持や姿勢を身につける指導をしてほしい。 ○文化祭や地域清掃ボランティアなどを通し、地域との交流をより深めてもらいたい。 ○学校教育推進会議等の話し合いは重要で「これでいい」という終わりはなく常に前進していく必要がある。また、このような会議の立派な資料を生徒・保護者に公開してはどうか。	○今年度の3修制(ジャンプアッププログラム)での卒業生は10名で過去最多の人数となった。来年度の卒業生の数はさらに増加する見込みであり、今後七つの制度の充実に向け努力していきたい。定着率向上の方策の検討や新入生へのオリエンテーションを今後とも充実させていきたい。 ○今年度課題とした新しい教育課程についての研修・研究が乏しかった。今後は校内の研究会・研修会を実施したい。 ○保護者・地域住民の方々との連携については、地域ボランティア清掃以外にも文化祭等の行事を通しても行いたい。 ○「心肺蘇生(AED)研修会」を経験すると共に、運動部の生徒等も研修会に参加させたい。 ○来年度は生徒の図書館利用の促進を図りたい。各教科の授業で図書館利用を推進していきたい。 ○学校教育の根幹である授業に対しては職員全員がより研鑽を積み、主体的・対話的で深く、さらにわかりやすい授業を心がけたい。